

# ふあい 広場



徳川家光が日光東照宮の造営にあたり、全国各地から集めた名工、技工が、冬の間、寒さを避けるため、宇都宮に宿泊。その折、彼らの間で盛んに歌われた木遣り歌が、次第に独特の形になり、宇都宮鳶木遣りが誕生したと伝えられています。

その特徴は、江戸木遣りと比べてややテンポが早いこと。戦後、鳶職人が徐々に少なくなり伝承が難しくなったため、保存会が設立されました。現在、保存会のメンバーは、二十五人。その中には、全国的にも珍しく、女性が四人もいます（昭和36年10月4日、市の無形文化財に指定）。



とびきや  
宇都宮鳶木遣り  
本丸町 石川金一さん

文化財ウォッチング

